

富山大学 教養教育院

令和4年度 第2回

# FD研修会報告

Faculty Development Report

# FD



Liberal Arts and Sciences at **University of Toyama**

## 目 次

開催趣旨と総括・・ 1

講演に関する質疑応答の要約・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

### 参考資料

- ・ FD 研修会での説明スライド
- ・ 開催要項
- ・ 参加状況
- ・ 参加者アンケート

## 開催趣旨と総括

令和4年度教養教育院FDシリーズ「教養教育の更なる充実をめざして」第2回研修会は、対面・オンラインのハイブリッド方式で9月28日に開催されました。今回は、名古屋大学教養教育院長の戸田山和久先生をお招きして「名古屋大学の全学教育科目新カリキュラム」との演題で講演をしていただきました。

名古屋大学では、2022年度より大改革を行った上で新教養教育カリキュラムをスタートされており、一年次から大学院までを通じた教養教育など他大学に類をみない非常にユニークな「名古屋大学ブランド」での教育カリキュラムの展開を本年よりスタートしています。新たな取り組みとして、「超学部セミナー」といった学部をまたいだ問題解決型の科目の設立などの今までにない先進的な取り組みがいくつも組み込まれています。名古屋大学新教育プログラムについて、また、名古屋大学独自の教養教育運営組織の構築にいたる道筋について、名古屋大学の教養改革の中心で改革を進められている戸田山先生から直にお話を伺う事で、富山大学も多くを学べるはずという事で、このFDが企画されました。

戸田山先生は軽快な口調で、まず「大学カリキュラムの重要性」について強調されました。学生はカリキュラムに含まれる全科目を修得する事は不可能であるが、カリキュラムの全体をながめる事で、その大学の教育構成の全体像を知る事ができるというわけです。次いで、ご自身のバックグラウンドである哲学を基盤として、教養の定義について説明されました。教養とは、「市民としての素養」として社会人にとって必須であるという本質と、つかみ所が無いという難しい側面を合わせてもっているとのことでした。まず「教養とは」と言うところから説き起こし、現在の日本の大学における教養教育に至る歴史的経緯をわかりやすくお話されました。

近年の大学における教養教育の扱いが惨憺たるものとなってしまった状況と、名古屋大学でも教養部解体後20年、カリキュラムの抜本的改革がなされぬまま時代遅れとなってしまっていたことを受け、2017年度より教養教育院内で戸田山先生をグループリーダーとする検討ワーキング・グループ(WG)が設置され、「科目区分の見直し+国際通用性の向上」目的とした改革が議論されていたとの事です。また翌年の2018年度には、前名古屋大学総長の発案の下に「名大ブランドの教育ビジョンを創る」タスク・フォース(TF)が設置され、議論、提言の取り纏めが行われたとの事です。この時の議論の仕方が良かったとの事で、コアメンバーの他、学生も事務方からも自由に意見が言えるという方式であったことがその後の改革の基盤として大いに役立ったという事です。

この提言に基づき、2019年より全学的議論が開始され、同時に教養教育院内部に個別の新規科目の内容を検討するWGを複数設置し、2021年6月に新カリキュラム案が全学的に大筋で合意され、微調整の後、2022年入学者から新カリキュラムをスタートしたとの事でした。

名古屋大学の新教養教育はかなり斬新で、FD参加者の間でも大きな反響がありました。各学部の基礎教育としての色彩を思い切ってできるだけ希薄にし、これまで初年度に重きが置かれていた教養教育を全学年に展開していくという方式を、本学はどこまで参考とすべきか？どこまで参考としないべきか？今後、本学で「富山大学ブランド」の理想像を踏まえ教養教育を議論していく上で、大いに参考となったFDでありました。

教養教育院教育改善推進委員会委員  
片桐 達雄

## 講演に関する質疑応答の要約

### —初修外国語について—

〔参加者〕

カリキュラム改訂後の初修外国語クラスを運用するためには、どのくらいのクラス数が必要になるのか。パターン1だけ開講する場合と比較すると、改訂後の履修モデルでは各クォーターでの授業内容がパターンによって分かれるため、運用が相当難しくなるのではないか。

名古屋大学の事例を参考にして本学でもできないかという議論をした際には、学部を問わず学習意欲のある学生たちが「初級完成」や「中級1・2」に合流できるような形にしたいが、その場合は、(授業進度の)タイミングを合わせるなどの工夫が必要になるだろう、という話が挙がった。

(初修外国語の)クラス数の規模はカリキュラム改訂によって増えたのか、または何か減らす工夫はあったのか。特に「多言語修得の基礎」について伺いたい。

〔戸田山先生〕

「多言語修得の基礎」は、大人数を対象にしており、クラス数はそれほど多く設けずに済んでいる。ゲスト講師の回を全15回のうち1回設け、学生が所属する学部の教員もしくは留学生が担当することとしている。(ゲスト講師の回の対象言語は、A～Fの6言語に限らない)。

このような仕組みにより、基本的には授業クラス数は大幅に減った。

(旧カリキュラムでは)特に工学部の開講数が多かったが、新カリキュラムへの移行により科目数・クラス数が大幅に削減された。

### —カリキュラム改訂に際しての既存科目の取扱いについて—

〔参加者〕

理系教養科目の基礎科目化を防止するために、(カリキュラム改訂にあたり)科目名から理系・文系や人文・社会・自然といった言葉がなくなり、「現代教養科目」へ改称されたと伺った。

今までの教養科目が解体され、作り変えられたようなイメージを受けたが、旧カリキュラムにおいて開講されていた科目はすべて廃止され、ゼロから新規科目を用意したのか。

〔戸田山先生〕

基本的には、これまで開講していた教員に引き続き担当してもらうことを念頭にして作った。そのため、科目名称と科目のカテゴリーは変更したが、授業内容

は従来そのままとした。旧カリキュラムで開講していた科目をすべて廃止し新規で立ち上げたわけではなく、科目名称と位置付け及び趣旨を変更した。

〔参加者〕

科目名を統合したものもあるか。

〔戸田山先生〕

複数の科目を統合したものもある。理系の科目では、化学の教員と物理学の教員がほぼ同じ科目名で授業を実施しており、副題を見ただけでは授業内容が分からない科目が多々あったため、学生が科目名だけを見て授業内容の見当がつくよう、名称の変更を依頼した。

〔参加者〕

文系科目についても同様か。

〔戸田山先生〕

同様である。文系の教養科目は、散文的な科目名称が多かった。

理系学部から意見があり、哲学入門、政治学入門といったような分かりやすい科目名へ変更した。(汎用的な科目名へ変更することで)教員が変更になっても担当できるという利点もある。

#### —教養科目の単位修得方法について—

〔参加者〕

教養科目の「国際理解科目」「現代教養科目」「超学部セミナー」の単位の修得方法について伺いたい。これはそれぞれの科目から○単位ずつ、いくつか修得する、という理解でよいか。

カリキュラム改訂により卒業要件単位が変更となったことに伴い、単位修得を要する教養科目が大きく減ったということだが、それでも(科目を)満遍なく履修することができるのか。

卒業要件単位数を減らした場合、必要な教養を学生に身に付けさせることができるかどうか、教養教育科目を担当する者からすると少し不安になるが。

〔戸田山先生〕

「国際理解科目」「現代教養科目」「超学部セミナー」からそれぞれ単位修得させるようなカリキュラム構成には出来なかった。教養教育科目に必要な単位数は

全部で何単位で、そのうち全てを「国際理解科目」で修得しても、「現代教養科目」で修得しても構わないという形になった。

(そのようなカリキュラムとした) 一番大きな理由は、「超学部セミナー」の開講数を確保することができなかつたためである。将来的に開講数を増やす方向で、まず枠組みがあれば、やりたい教員が出てくるだろうという見込みで枠組みを作った。

(教養教育科目の卒業要件単位数を) 減らして大丈夫か、ということについては、実は教養科目についてはそれほど減ってはいない。言語文化科目について、旧カリキュラムでは1.5単位としていたが、新カリキュラムでは2単位に変更した。科目数として一番減ったのは、初修外国語科目である。

また、「基礎セミナー」については、(旧カリキュラムでは) 文系は通年で開講していたが、後期は学部専門科目として開講してもらうこととし、半期の開講とした。

教養科目をどのくらい学んでもらうのがいいかというのは(判断が) 難しいが、(科目を) 精選して、一つ一つの授業内容を改善した方がよいのではないかと個人として考える。

#### —共通基礎科目「基礎セミナー」について—

[参加者]

共通基礎科目の中の「基礎セミナー」の開講規模(担当教員数、開講クラス数等)について伺いたい。

[戸田山先生]

「基礎セミナー」の定員は15名であり、100クラス超の開講がある。(ただし、授業内容に応じて履修者が少なめのクラスもある。)

また、クラスは文系学部と理系学部の混成クラスとしている。

[参加者]

(「基礎セミナー」は) 全学部の教員が担当すると思うが、100名超に担当してもらっているという理解でよいか。

[戸田山先生]

そのとおりである。

「基礎セミナー」は旧カリキュラムでも開講されていた科目であり、全学部の教員が担当し、何年かに一度は担当が回ってくるものであるという認識が、教員内で既に浸透していた。

#### ーカリキュラムのスリム化についてー

〔参加者〕

カリキュラムのスリム化について、伺いたい。

(カリキュラムを)スリム化するために、様々な科目を統合したという話があったが、その際に1クォーターにつき1教員という縛りをそのまま残したのか、それとも複数教員によるオムニバス方式で科目を担当する形としたのか。

〔戸田山先生〕

クォーター科目と記載のある科目のみクォーター制をとっており、その他のほとんどは従来どおり2単位のセメスター科目である。複数教員が担当する科目としているのは「多言語修得基礎」や「大学での学び基礎論」(オンデマンド開講)である。その他の科目は、基本的に1教員で全授業回を担当している。

各学部へ担当科目及び開講数を依頼し、担当教員及び教員数は学部で決めてもらっている。

#### ーカリキュラム検討ワーキンググループについてー

〔参加者〕

カリキュラムの見直しワーキンググループと初修外国語に関する検討ワーキンググループを設置したという話について、その構成メンバー数や規模について伺いたい。

〔戸田山先生〕

カリキュラムの見直しワーキンググループは、10名程度の教員と事務職員で構成した。

初修外国語は部会を作り、カリキュラムの再検討自体は部会の主査に依頼したが、その必要性については、初修外国語を担当するすべての教員を招集し、2回ほど説明会を行った。

#### ー教養科目の責任体制についてー

〔参加者〕

教養科目の責任体制について伺いたい。



名古屋大学では、部会及び科目によっては部局という２段構えの体制をとっているのか。

〔戸田山先生〕

全学出動体制であるため、(教員により担当状況に偏りはあるが)建前上は全教員が担当するという方針になっている。教養教育院から、各部局に授業科目及び担当コマ数を依頼し、部局で担当者を決めて報告してもらっている。報告内容を教養教育院でとりまとめ、今度は科目区分ごとに部会を構成し、授業内容等を検討いただいている。

責任体制としては、第一義的には個々の教員が責任を持つという作りになっている。

個々の教員が教養教育に対する責任を果たすときに、審議体として、部会があり、教員が絶えず入れ替わる科目と、固定化されている科目では部会の果たす役割が大きく異なる。

このことから、初修外国語は部会に依頼することが適切であったため、部会にカリキュラム改訂にかかる検討を依頼した。また、「基礎セミナー」のように教員の流動性が高い科目については、教養教育院でワーキングを設置し検討した。



# 名古屋大学の全学教育科目新カリキュラム

名古屋大学・情報学研究科＋教養教育院 戸田山和久

## カリキュラムとは何か

カリキュラムは「知識の樹」のようなもの、知識体系の全体像を可視化したもの

知識体系の可視化は啓蒙主義者がたいせつにしたプロジェクト

学生はカリキュラムに含まれる科目の全てを受講することはできないが、カリキュラムを眺めることで、人類の知的達成がどのような全体を構成しているのかを知ることができる（カリキュラム自体に教育力がある）

# 教養教育のカリキュラムとは何か

教養教育のカリキュラムとは何か、また何であるべきか  
→教養教育は「教養を涵養するもの」だとするなら、教養教育のカリキュラムとは、教養とは何か、教養とはどのような体系をなしているのかの全体像を提示するものでなくてはならないのでは？

## しからは、教養とは何か

教養は象に似ている説

# 哲学者の仕事は「概念工学」

哲学者の仕事は概念を分析し、概念を作り直すこと  
それを「教養」の概念を相手にやってみましょう



で、いきなり答えを

教養とは、「社会の担い手であることを自覚し、公共圏における議論を通じて社会を改善し存続させようとする存在」であるために必要な**素養・能力**（市民的器量）であり、また、己に「規矩」を課すことによってそうした**素養・能力**を持つ人格へと自己形成するための過程も意味する

# 教養の内実をなす素養・能力とは

(1) 大きな座標系に位置づけられ、互いに関連づけられた豊かな知識、さりとして既存の知識を絶対視はしない健全な懐疑

(2) より大きな価値基準に照らして自己を相対化し、必要があれば自分の意見を変えることを厭わない闊達さ。公共圏と私生活圏のバランスをとる柔軟性

(3) 答えの見つからない状態に対する耐性。見通しのきかない中でも、少しでも良い方向に社会を変化させることができると信じ、その鳳凰に向かって努力し続けるしたたかな楽天性とコミットメント

## 教養＝象説の暗黒面

で、こういう教養を学生に授けるのが教養教育だと思うんだが…

ふりだし：社会のつくり手の  
素養・民主主義の基礎

立身出世の手段

旧制高校キモ男子の  
現実逃避先

敗戦後一回休み

パンキョー：B級教員によ  
る専門の準備

あってもなくてもよいもの

教養の  
落魄人生すごろく

あがり（貧乏農場）  
大学の不採算部門＝  
けずりしろ

## 私も教養教育の悲惨を体験してきた

1989.7 名古屋大学教養部講師

・大学設置基準の大綱化による教養部廃止ブーム

1993.10 情報文化学部助教授

1998.4 高等教育研究センター助教授へ人身御供

2000.4 情報文化学部助教授に戻る

・新構想学部の苦しみを体験

2003.4 情報科学研究科教授

# 私も教養教育の悲惨を体験してきた

- 2005.1 高等教育研究センター長（兼任）
- 2009.4 教育担当総長補佐（兼任・至2012.3）
- 2010.4 教養教育院副院長（兼任・至2015.3）
- 2012.4 教育・評価担当総長補佐（兼任・至2020.3）
- 2015.4 教養教育院長（兼任・現在に至る）
- 2017.4 情報学研究科教授 現在に至る

**で、教養の哲学を具体化すべくカリキュラム改革に乗り出した、と話がすすむとカッコイイのだが…**

**カリキュラム改革はとても個人の思い通りになんぞいきません（妥協の連続）**

**それでもちょっとは…忍び込ませるくらいはできたかもしれない**

# というわけで…

2022年にスタートした、名古屋大学の教養教育新カリキュラムについて報告します

## カリキュラム見直しの経緯

- ・ 教養部解体後のカリキュラムが策定されて20年近く経過、カリキュラムの抜本的改定はなされぬまま**量的に拡大**。不整合・時代遅れ・弥縫策が目立つように
  - ・ 2017年度から教養教育院内にWGを設置し検討を開始。全学教育科目の**科目区分の見直し**+**国際通用性の向上**が目的
- とりわけ、①理系教養科目、文系教養科目、全学教養科目という区分の廃止、②散文的科目名（基本主題科目時代のなごり）の廃止、③理系教養科目の基礎科目化の防止が（ワタクシ的には）目標



# カリキュラム見直しの経緯（公式）

- ・2018年度、前総長の下に「名大ブランドの教育ビジョンを創る」タスク・フォースが設置され議論、提言とりまとめ（議論の仕方は非常に良かった）
- ・2019年度、提言に基づき役員会から教育改革の指示、全学教育委員会を舞台に全学的議論を開始。同時に教養教育院内部に個別の新規科目の内容を検討するWGを複数設置し、具体化を進める（COVID19で一年後ろ倒し）
- ・2021年6月に新カリキュラム案が全学的に大筋で合意。微調整に入る
- ・2022年入学者から新カリキュラム開始

## 名大ブランドTFの提言（抄）

### （1）学生が自主的に学べる環境の提供

より教育効果を高めるため、敢えて履修要件を緩和し、自主的に学ぶ時間を学生に与えることで、自発性と想像力を備えた研究者・社会人を育成するカリキュラムとする（知識の詰め込みからの脱却）

学生に刺激を与え、自発的なチャレンジや試行錯誤を後押しするような授業を提供する。

ICTを活用した情報伝達型講義と対話を重視した問題解決型授業をバランス良く組み合わせ、学生の主体的、積極的な学びを支援する。（COVID前から言っていたのはエライ？）

## 名大ブランドTFの提言（抄）

(2) 教員が十分に教育を行えるようにするための支援教育に対する教員のモチベーションを高める。そのために、**教育にかける努力が報われるしくみ**を作る。

**カリキュラムのスリム化**により、教員が教材や教育方法を研究する時間的余裕を捻出する。また、新しい教育方法の習得を助けるための**教員研修**を行う。

## 名大ブランドTFの提言（抄）

(3) 教養科目と専門科目のバランス、教養教育の内容の再検討

**教養教育は専門教育の準備段階ではないという理解を徹底し**、広い教養と深い専門とを相補的な構図で捉えてカリキュラム設計を行い、**統合的でメッセージの明確なカリキュラムに整備する。**

共通教育を**コモンベーシック教育**と**リベラルアーツ教育**の二本柱からなるものとし、それぞれを学部初年次から大学院まで段階に応じて**シームレスに実施する。**

# 名大ブランドTFの提言（抄）

**（3）教養科目と専門科目のバランス，教養教育の内容の再検討（承前）**

**【コモンベーシックス】** 学びの基礎を修得するためのコモンベーシックスでは，従来からの高度な言語運用能力（英語を含めた読む・聞く・話す・書く）に加え，**数理・データ科学の基礎的素養**，及び他者を理解し自己を理解してもらう表現力を身につけることを主眼とする。

# 名大ブランドTFの提言（抄）

**（3）教養科目と専門科目のバランス，教養教育の内容の再検討（承前）**

**【リベラルアーツ】** **専門性を相対化し俯瞰できる幅広い視野**，**卓越した人材として人類社会に貢献しようとする心構えと高い倫理性**を持った人材を育成するため，**学部初年次から大学院まで段階を追ったリベラルアーツ教育**を実践する。

# 全学教育科目の見直しの方針

ICT等を活用し知識伝達と能動的学習とのメリハリをつけることにより、**アクティブラーニング主体の教育**へ転換

**「専門の準備としての教養教育」という考えを改め、専門教育の深まりに応じて、初年次から大学院までシームレスに展開**

**数理・データ科学教育を充実**

学部を超えた共同学習による**専門分野の相対化**をはかる  
**超学部セミナー**を実施

学生に深い学びの機会を与えるため、**総単位数を見直し**  
(卒業要件単位数を大学設置基準が定める最低数を大きく上回らないようにする。学部124単位、医学科188単位)

## 新カリキュラムの概要 (1)

まず手をつけたのは「科目区分」の変更

現行のカリキュラム

基礎科目	
全学基礎科目 <b>全学って何よ</b>	
基礎セミナー	
言語文化	言語文化Ⅰ
	言語文化Ⅱ
	言語文化Ⅲ
健康・スポーツ科学	
文系基礎科目 <b>なくしたい!</b>	
理系基礎科目	
教養科目	
文系教養科目	<b>教養に文理はないでしょ</b>
理系教養科目	
全学教養科目 <b>許し難し</b>	
開放科目	

改正後

共通基礎科目 <b>コモンベシクスが化けた</b>	
「大学での学び」基礎論	
基礎セミナー	
言語文化科目	英語
	初修外国語
	日本語
健康・スポーツ	講義
科学科目	実習
データ科学科目	
教養科目 <b>リベラルアーツが化けた</b>	
国際理解科目	
現代教養科目	
超学部セミナー	
<b>ここの切れ目がミソ</b>	
分野別基礎科目	
人文・社会系基礎科目	
自然系基礎科目	

# 教養科目と専門基礎科目の峻別

専門基礎教育に乗っ取られていた教養教育を本来の理念に戻す

- **共通基礎科目** 未来社会を担う「**市民**」の基盤となる能力・態度を涵養（専門のための基礎ではなく）
- **教養科目** 広い視野、自己相対化、協同性、おおきな座標系、分野越境能力



- **分野別基礎科目**（これが従来専門の基礎とされていたもの）

# 現代教養科目の設計

「相対化」がキーワード

・ **現代教養科目** 「現代社会が抱える課題の理解を踏まえ、その課題に対する学際的・総合的分析能力を養うとともに、目指す専門分野と他分野との関連性を理解することによって、**専門知の社会的役割**を認識し、自らの**専門分野を相対化**する視点を身につける」

→人文社会系、自然系、学際融合系に分けて…理系学生は自然系をとれない、文系学生は人文社会系をとれない、とする

→後期教養教育への展開 3年生以上で履修する科目も用意  
科学史・技術史、科学・技術の倫理、環境学入門

## 国際理解科目

「異文化との出会い」を契機に、世界には多様な価値観があることを認識し、近現代の国際関係に関する知識と事項の文化に関する知識を身につける。これを通じて、自らの主張を展開する力と文化的社会的な寛容性とを兼ね備えた、国際社会で活躍しうる人間に成長するための基礎を築く

短期海外研修科目：海外言語文化演習，短期海外研修

留学関係科目：海外留学準備セミナー

言語関係科目：英語ライティング・プレゼンテーション

英語による授業：Studium Generale（岐阜大学と共同開講），EMI科目（English as a medium of instruction）

# 新カリキュラムの概要 (2)

## 特徴ある科目

### 「大学での学び基礎論」の新設

大学とは何か、大学で学ぶとはいかなることか、大学での学びを充実したものにするにはどのような知恵が必要かについて理解し、主体的な学習者としての態度の核を形成する

+ 心理的問題をかかえた学生の早期発見と対処

+ 各種ガイダンスの授業化・単位化

1年春学期全学部必修 (1単位)

オンデマンドと対面の併用で実施



# 「大学での学び基礎論」の内容

## 【対面授業】

①大学の歩き方—知識の森で迷ったら—

## 【オンデマンド型授業】

②キャリア形成 ③名大の歴史

④社会安全学 ⑤知的財産権の基礎

⑥ジェンダー学入門 ⑦名大生のための留学講座

⑧ICT利活用と情報セキュリティ

2023から新單元としてアントレプレナー教育の基礎部分も追加予定

「大学での学び」

基礎論

大学の歩き方  
—知識の森で迷ったら—

1 次世代型セルフケアの勧め

2022年4月 学生支援本部



「大学での学び」

基礎論

社会安全学 (1/3)

—社会で「安全」に暮らすために—



オンデマンド教材は統一フォーマット+字幕+視覚障害者  
対応フォント (MSゴシックは死ね！)

「大学での学び」

基礎論

ICT利活用と情報セキュリティ  
ICT利活用



2022年4月 情報連携推進本部情報セキュリティ室



# 「基礎セミナー」の見直し

少人数のセミナー形式による多面的な知的トレーニングを通じて、**真理探究の面白さに触れる**とともに、**主体的な学びに必須の「調べ、考え、書き、話す」能力を涵養**する

**【現状】真理探究はOK 「調べ考え書き話す」はイマイチ**

**アカデミックスキルに関するモジュール統一教材を提供**  
**文献検索・レポート作成法等の身に付けてほしいアカデミックスキルについて、オンデマンド型と対面型でのモジュール授業・教材（QTA、附属図書館が担当）を提供**  
**セミナーのテーマ、当該教材の使用及びその方法は、授業担当教員に委ねる**

## オンデマンド教材（動画、ワークシートなど）

〈アカデミックスキル編〉

- 01\_ 学問をはじめよう
- 02\_ 論証の基本：三角ロジック
- 03\_ 議論を組み立てる
- 04\_ クリティカルリーディングを行う
- 05\_ 論文・レポートを書く
- 06\_ 問いや仮説を見つける
- 07\_ 調査法の基礎
- 08\_ アカデミックな表現法
- 09\_ プレゼンテーションを行う
- 10\_ 資料のつくりかた1
- 11\_ 資料のつくりかた2
- 12\_ ディスカッションを行う（議論する）

〈文献検索スキル編〉

- 01\_ 情報検索のステップと資料
- 02\_ 基本知識を得る
- 03\_ 図書を探す
- 04\_ 図書を選ぶ
- 05\_ 論文を探す
- 06\_ 論文を選ぶ
- 07\_ 統計情報を探す
- 08\_ 資料を入手する
- 09\_ 正しく引用する

## 対面モジュール授業

授業担当教員が希望する基礎セミナークラスを対象に、アカデミックスキル編、文献検索スキル編について、演習中心のモジュール授業（各1コマ）を実施。全学の認定を受けたQTAが担当。

# データ科学科目の新設

## (1) データ科学基礎（講義） 1単位

1年春学期全学部必修、完全オンデマンド

内容：

コンピュータリテラシ

データの記述と可視化

確率及び統計の基礎的概念（数学をなるべく用いない）

※データ科学教育研究センターが担当

※2021年度に試行し、内容を改善したのち2022年度から開始

# データ科学科目の新設

## (2) データ科学基礎演習 1単位

1年秋学期履修

オンデマンド教材を配信、授業時間に質問対応

内容：講義で取り扱った計算や分析手法を

Python, R・Excel 等を用いて学生自身が実行。

使用言語 R・Excel 主に文系対象

使用言語 python 主に理系対象

# 初修外国語の目的の見直し

## 初修外国語への否定的意見

英語さえできればOK、ゆえに無駄

身につかない・忘れる、ゆえに無駄

何語をとるかを入学時に決めるのは無理

理系を中心に不要論が散発的に吹き出してきた

∴英語とお手手つないではもう無理

## 初修外国語部会への検討依頼

→なぜ英語以外の外国語を学ぶ必要があるのかから再検討

## 新たな初修外国語カリキュラムに関する検討WGを設置

### 2020年9月にとりまとめ

・科目の目的を「英語以外の外国語の学修を通して、**多様な異文化に対する理解と寛容性を身につけ、国境を越えてよりよい未来社会の構築をめざして協同**するために必須の複数外国語運用能力の基礎を築く」とし、単位数を削減した上で**必修は維持**

・その上で、学生の学習目的に応じて、いつからでも、どのレベルまででも途中からの再履修が可能なカリキュラムを目指す

# 履修モデル

V期以降 大学院	選択科目・随意科目				
	基礎1・2	初級完成	中級		目的別上級 (会話・文献購読等)
IV期	中級2 週1回2単位	中級 週1回2単位	選択科目・随意科目 中級 初級完成		短期海外 研修  海外言語 文化演習 1・2  各1単位
III期	中級1 週1回2単位	初級完成 週1回2単位			
II期	初級完成 週1回2単位	基礎2 週1回2単位	基礎2 週1回2単位		
		基礎1 週1回2単位	基礎1 週1回2単位		
I期	基礎2 週1回2単位	多言語修得基礎 クォーター・1単位	多言語修得基礎 クォーター・1単位		
	基礎1 週1回2単位				
開講期	パターン1 必修5科目・10単位	パターン2 必修5科目・9単位	パターン3 必修3科目・5単位	全学部	
各学部の 履修要件	文・法・教・情(人社) 農*II期まで	経	医・工・情(自然・コンピュータ)・ 理(I期まで。)		

## 多言語習得の基礎（マルチリンガルへの旅）を新規開講

初回 取りまとめ教員	<b>イントロダクション——複数の外国語を学ぶ意義</b> ・コロナ禍が証明したグローバルな人的流動、その対応により顕在化した <b>文化的差異</b> ・複言語化する日本国内の概況（地域コミュニティ、企業人材、観光、高等教育）	
各回	<b>共通項目</b>	<b>裁量項目</b>
言語A	<b>【教養編】</b> ① <b>地理</b> 的な言語文化圏、使用人口、言語的特性（ <b>語族・類型</b> ） ②言語文化圏の <b>歴史、政治・社会</b> 体制、 <b>文化</b> の特徴 ③日本／日本語との関係 ④ <b>時事トピック</b> <b>【言語実践編】</b> 場面毎のロールプレイ（挨拶、自己紹介+a） 自分の名前をその言語で書ける／言えるようになる。	各担当者の専門に関するトピック
言語B		
言語C		
言語D		
言語E		
言語F		
ゲスト講師	・学生が所属する部局の教員・大学院生・留学生などによる第二、第三外国語をめぐる体験談 等。	

# 超学部セミナー

自らの目指す専門性が自覚された**学部3～4年次**において、異なる分野を学ぶ学生が学部・学年を超えたチームを組み、自主的に設定した課題の解決のためにみんなで考え力を合わせる主体的経験を共有する。これを通じ、リーダーシップとチームワーク、異分野への開かれた態度、多様な人々の協調による課題解決能力を身につける→岐阜大学との連携開設科目へ

## 【授業の種類】

類型	内容
自主ゼミナール	学生の自発的提案により、課題を設定し、解決の道筋を探求する授業
連携授業	地域、企業、留学生等と連携して、課題の解決を図る授業
Summer Camp	合宿形式で、異なる背景を持った者が集まり、大学生に必要なアカデミックスキルを用い、課題を解決する授業（使用言語は英語）
Winter Camp	合宿形式で、仲間との交流を通じてリーダーシップ、チームビルディングの手法を学び、チームで与えられた課題の解決のための実践を図る授業

※当面、Summer Camp 及び Winter Camp を開講し、担当教員等の準備が整い次第、順次他の授業の種類においても開講する。

## 新カリキュラムの概要 (3)

### カリキュラムを実装するためのしかけ

# 履修要件の見直し

**必要単位数は微減、標準的な履修科目数は、文系で4-6科目減、理系で2-5科目減**

**(従来1.5単位など小数点以下の科目を置いていたが、新カリキュラムでは15週の授業内容は原則2単位としたので、科目数は減っても単位数はあまり減らなかった)**

## 初年次から大学院まで展開する教養教育

**科目の一部を学部3-4年次対象に開講。英語教育の強化  
+いつでも学び直せる初修外国語+超学部セミナー+後期  
教養教育にあてる**

### 【時間割のスッキリ化】

- ・全学教育科目と学部専門科目の開講曜日を分ける**
- ・学部3-4年次共通の全学教育科目を開講するための統一的曜日・時限を設ける（毎学期金曜1・2限、ここには学部の専門科目を配置しない）→このための各学部との交渉がいちばんたいへん**





# カリキュラム変えてみて…

**「ガラス細工」の全学出動体制の維持のために神聖不可侵化されていたカリキュラムも変えようと思えば変えられる  
そのためには、技術的な細部の手直しの積み重ねではダメ  
(利害の衝突が調整不可能になる)**

**いったんは、教養（教育）とは何かについての原理的議論  
を行い、合意を形成する必要がある。そしてそれは思った  
ほどたいへんではない（みんな意外と理解がある）**

**そういう原理的議論を全学レベルで行えたことが最大の収穫**

# カリキュラム変えてみて…

**最後にカリキュラムを実装する段階の微調整はたいへん手  
間がかかる**

**→有能な事務方のサポートが不可欠**

**時間割調整の名人、教室割り当ての名人のもつ暗黙知を明  
示化して継承可能な文書の集まりにすることができたのも  
副次的な効果**



# 教養教育院FD 実施計画

テーマ「教養教育の更なる充実を目指して 教養教育院FD2022 vol. 2」

## 1. 開催趣旨

今日、社会からは、長引く新型コロナウイルス感染症や景気低迷、深刻度を増す環境保全対策等に対応した人材育成が求められています。自ら考え、未知の課題に対応できる能力、多様な属性や考えの人々と協調して物事を進めていける能力を身につけさせることなどが求められています。

このことを踏まえ教養教育院では、令和8年度を新たな教養教育の改革年と位置づけ、学生に身に付けさせるべき能力を確認した上で、新たな教育内容、実施方法等について取りまとめていく計画です。

今回のFDは、本学教養教育の更なる充実に向け、改革を実施した大学の先行事例を学び、参考とすることを目的に実施します。

## 2. 開催日時

令和4年9月26日（月）15：00～16：20

## 3. 開催会場

Microsoft Teams 会議によるオンライン配信

## 4. 対 象

本学教職員，非常勤講師

## 5. 次 第

### (1) 開会挨拶・趣旨説明（2分）

彦坂 泰正（教養教育院教育改善推進委員会委員長）

### (2) 「名古屋大学の全学教育科目新カリキュラム」（45分）

講師：戸田山 <sup>とだやま</sup> <sup>かずひさ</sup> 和久 氏（名古屋大学教養教育院長）

### (3) 質疑応答（30分）

### (4) 閉会挨拶（3分）

武山 良三（教養教育院長）

令和4年度第2回教養教育院FD  
「教養教育の更なる充実を目指して 教養教育院FD2022 vol.2」参加状況

**【当日参加者内訳】**

教員	
役員	1
人文科学系	2
社会科学系	2
教養教育学系	20
理学系	2
都市デザイン学系	2
工学系	1
医学系	7
教育研究推進系	8
小計	45

職員	4
----	---

学生	1
----	---

合計	50
----	----

**【オンデマンド参加者内訳】**

教員	
社会科学系	1
教養教育学系	1
理学系	2
都市デザイン学系	1
医学系	1
教育研究推進系	1
小計	7

合計	7
----	---

総計	57
----	----

## 令和4年度第2回教養教育院FD参加者アンケート集計結果

(2022/12/01 時点)

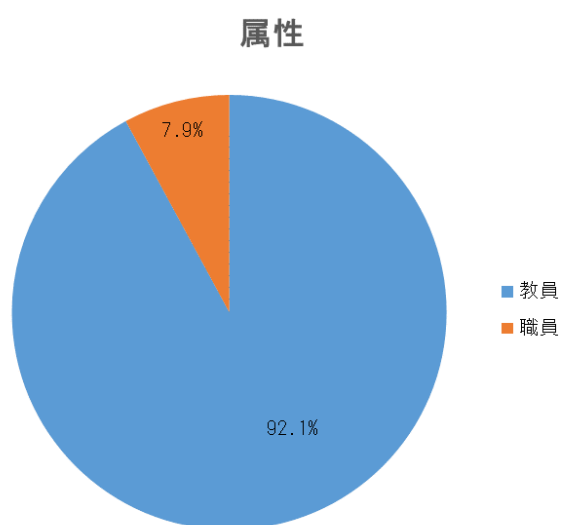
FD参加者数：50名

(内訳：当日参加者44名(うち教員39名、職員4名、学生1名)

オンデマンド配信参加者7名(うち教員7名))

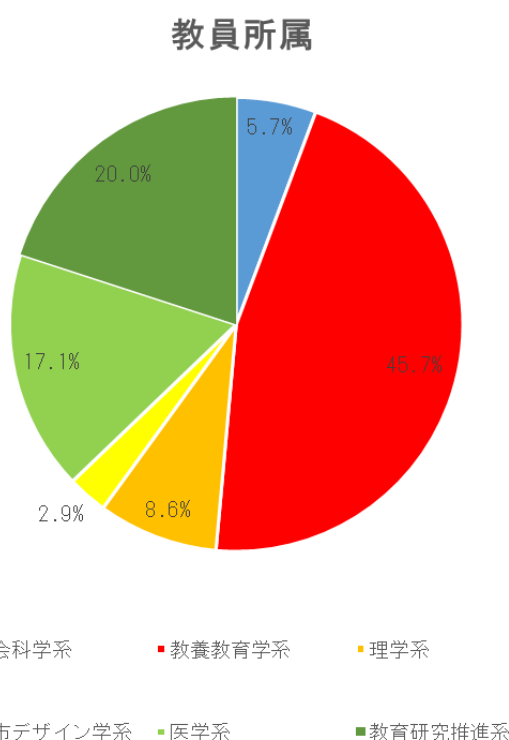
アンケート回答者数：38

### 1. 属性を選んでください



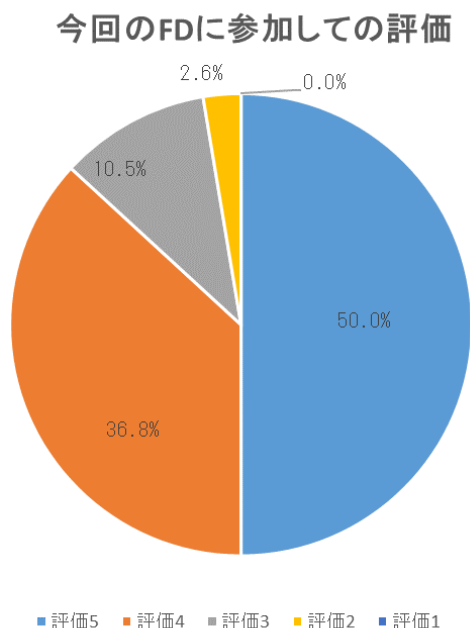
属性	人数
教員	35
職員	3
計	38

### 2. 所属を選んでください(教員のみ)



教員所属	人数
社会科学系	2
教養教育学系	16
理学系	3
都市デザイン学系	1
医学系	6
教育学研究推進系	7
計	35

3. 今回の教養教育院FDに参加しての評価を5段階評価で入力ください。



今回のFDに参加しての評価	
評価5	19
評価4	14
評価3	4
評価2	1
評価1	0
計	38

4. 今回の教養教育院FDについての感想やご意見があれば、ご記入ください。

(講演内容について：感想)

- ・名古屋大学の取り組みに見習う点がたくさんあると感じました。
- ・カリキュラムの統合のなかでも、特に外国語教育の統合について、複数の学部の教員からの意見を丁寧に取り入れながら今の形にまとめていった過程が印象的でした。
- ・改革先行大学の参考になる話が聞けました。
- ・教養教育とは何かという根本にさかのぼって再考し、改革を断行された点が素晴らしいと思いました。
- ・開講科目数を減らすことで各教員の負担も減らしつつ、その一方で授業内容を充実化するということは理にかなった考えだと思いました。ゆとりがあるなかでこそ、創造的な考えなども生まれるのかもしれないと思いました。初修外国語の多言語習得としての考え方は、世界は英語文化のみではないという点で重要だと思いました。
- ・教養教育院のほうから、各学部に授業担当の科目を依頼し、その具体的な担当者は各学部で決めるという方式は、とても良いと思いました。
- ・富山大学の教養教育院で実際に実施していく上では、ハードルが高いものも多々あるのかと思いましたが、非常に参考になりました。有難うございました。
- ・名古屋大学での教養教育の変遷から、理念やカリキュラム編成まで、非常にわかりやすく、興味深く伺いました。また、基礎セミナーや初修外国語の事例など、具体的なお話もあり、今後の参考になりました。
- ・令和6年度のカリキュラム改革に向けて、他大学の改革状況を知ることはとても良い企画です。

・専門教育を担当していますが、人間性の涵養に不可欠な教養教育の重要性を常々考えていました。大変すばらしい内容でした。本学でも低学年のみに捕らわれない教養教育カリキュラムの体系化を強く期待します。

・ぶっちゃけたお話が良かったです。

・学生にとって、魅力のある教養教育を実施できるのが、うらやましいと感じた。本学は、なぜできないのだろうか。

・冒頭の「教養とは」から、中盤～後半の具体的な話まで一貫する形でお話されており、楽しく、かつ、有意義でした。

・これまでの教養教育の歴史や捉え方がよくわかって、非常に勉強になりました。先生のご著書を読みたいと思いました。

・どこも教養教育のあり方は模索中であるようだが、共通化、標準化が進むよりはそれぞれの大学や教員の個性が魅力となるような教養教育であってほしいと聴きながら思いました。

・教養教育について、学部初年次だけでなく大学院まで段階に応じたものとの考えが新鮮であった。各学部・学科のカリキュラム編成にもかかわるので、単純な変更は難しいが、初年次だけではないという考えは教養教育を考えるうえで重要と感じた。

・本学では教養教育を全教員でということをやっているが、教養教育には教養教育の専門性があることがよく分かった。学部等の教員を動員して付け焼き刃的に教養教育に当たらせるのは無理があるように思った。

・説明は、分かりやすかった。俯瞰的な観点からの説明で、科目名などを詳しく知りたかった。初修外国語は、必修でなくともよいと思った。

・他大学のご苦労をうかがうことができ、大変参考になりました。

・大変参考になった。良い事例だった。

・大変興味深い内容で、ためになった。

(講演内容について：講師への質問)

・教養教育の実施に際し、部局や個々の教員に対し授業担当コマ数の責務やインセンティブを何か設けているのかお聞きしたい。

・2年次以降の学生のキャンパス間移動には問題ないでしょうか？たしか、医学部のキャンパスはやや離れていたかと記憶しております。

(FDの運営について)

・もう少し講演時間や質疑応答時間が長ければ、より満足度の高いFDであったと思います。

・武山院長もおっしゃっていましたが、改革前の状況と富山大学の現在に事情は似ているところがあり、参考になりました。事前に、名古屋大学のカリキュラム資料を配布してもらおうとさらに理解が深まったと思います。

5. 今後、教養教育院FDで取り上げて欲しいとお考えのテーマがあれば、ご記入ください。

- ・ 専門と教養とのシームレス連携について
- ・ カリキュラム改革の中心者のお話は大変に参考になるので、しばらくこのような企画を続けてよいと思います。
- ・ アクティブラーニング、PBL、少人数教育 など
- ・ 大人数（200人くらい）の講義の効果的な講義方法
- ・ 各教員の各専門はそれぞれ特殊なものであるが、そのような特殊で専門的な内容をどのように教養教育に活用できるのかを検討する機会があれば良いかと思う。
- ・ 特になし。（複数回答）

富山大学教養教育院 FD活動報告  
令和4年度第2回FD研修会

教養教育院教育改善推進委員会

委員長：彦坂 泰正

上田理恵子

片桐 達雄

山岸 倫子

大橋 隼人